

能「丹後物狂」智恩寺上演記念企画展

# 「世阿弥の時代」

「義満をめぐる芸能と丹後」

◆会期 平成21年

9月19日(土)

10月25日(日)

◆休館日 月曜日(9月21日は開館し9月24日休館、10月12日は開館し、翌日休館)

◆開館時間 午前9時～午後4時30分

〈場所〉当館第1研修室

◎10月3日(土) 午後2時～4時

「義満時代の丹後若狹と室町幕府」

— 守護一色氏と領国支配 —

講師 伊藤俊一氏 (名城大学人間学部 教授)

◎10月14日(水) 午後2時～4時

「中世天橋立沿岸の実景を探る」

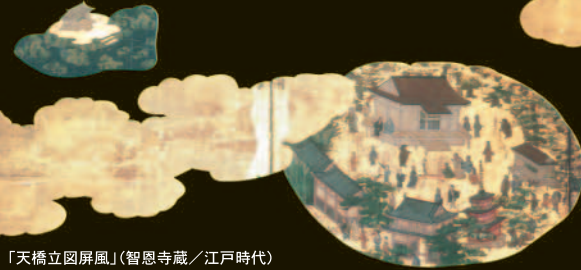
講師 中島陽太郎氏 (宮津市教育委員会 社会教育課)



「文殊菩薩像」(府指定「釈迦三尊像」部分)

## 京都府立丹後郷土資料館 ふるさとミュージアム丹後

〒629-2234 京都府宮津市字国分小字天王山6111-1  
TEL : 0772-27-0230 / FAX : 0772-27-0020  
http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/  
【交通】KTR「天橋立駅」・「岩滝口駅」下車、丹海バス  
伊根方面行き「資料館前」下車徒歩3分  
【入館料】個人/大人 200円・小人 50円 (小中学生)  
団体/大人 150円・小人 40円 (20名以上)  
※65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方とその介護者、小中学校等の行事・活動の観覧は無料です。



「天橋立図屏風」(智恩寺蔵/江戸時代)



「智恩寺文殊堂」(府指定文化財)

### 【協力事業】10月24日(土) 能「丹後物狂」

■開場: 午後1時30分  
■会場: 智恩寺 (雨天は宮津会館)  
■解説: 松岡心平氏  
■開演: 午後2時30分  
■シテ: 観世清和氏 二十六世観世宗家  
■子方: 観世三郎太氏

【主催】天橋立「能・丹後物狂」実行委員会 【チケット/実行委員会主催事業の問合せ】 (社)天橋立観光協会 TEL: 0772-20-8030 (KTR天橋立駅内)

### 9月24日(木) 午後2時～ ※申し込み必要 入場無料 能「丹後物狂」シンポジウム

■場所: 京都・相国寺 承天閣美術館2階講堂  
■主催: 天橋立「能・丹後物狂」実行委員会  
■協力: 観世宗家/(社)観世文庫/相国寺承天閣美術館ほか

### 10月23日(金) 2部制(14:30~16:40/19:30~21:40) 入場無料 「丹後物狂」を十倍楽しむ講演会

■場所: 智恩寺方丈 (第1部) 午後2時30分～4時40分  
みやび歴史の館 (第2部) 午後7時30分～9時40分  
■主催: 天橋立「能・丹後物狂」実行委員会  
■協力: 天橋山智恩寺/京都府立丹後郷土資料館ほか

能「丹後物狂」智恩寺上演記念企画展

# 「世阿弥の時代」

（義満をめぐる芸能と丹後）

◆会期 平成21年9月19日(土)～10月25日(日)

◆休館日 月曜日(9月21日は開館し9月24日休館、10月12日は開館し、翌日休館)

◆開館時間 午前9時～午後4時30分



絹本着色 足利義教像  
室町時代 法観寺蔵



○絹本着色 足利義持像  
室町時代 慈濟院蔵  
応永十九年(1412) 履中元礼賀



絹本着色 足利義満像  
室町時代 相国寺蔵

## 主催事業

■10月3日(土) 午後2時～4時

◆文化財講座 場所：当館第1研修室

### 「義満時代の丹後若狭と室町幕府」

—守護一色氏と領国支配—

◆講師：伊藤 俊一氏 (名城大学人間学部 教授)

■10月14日(水) 午後2時～4時

◆文化財講座 場所：当館第1研修室

### 「中世天橋立沿岸の実景を探る」

◆講師：中嶋陽太郎氏 (宮津市教育委員会 社会教育課 主任専門員)

## 協力事業

主催：天橋立「能・丹後物狂」実行委員会

■9月24日(木) 午後2時～ ※申し込み必要(下記まで)

### 能「丹後物狂」シンポジウム(入場無料)

◆場 所：京都・相国寺 承天閣美術館2階講堂

◆テーマ：「天橋立と室町文化～義満と世阿弥の旅～」

◆講師：伊藤 太氏 (京都府立山城郷土資料館主任)

松岡心平氏 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

◆パネラー：有馬頼底氏 (臨濟宗相国寺派管長・承天閣美術館館長)

観世清和氏 (二十六世観世宗家)

島尾 新氏 (多摩美術大学教授)

■10月23日(金) 2部制(14:30～16:40/19:30～21:40)

### 「丹後物狂」を十倍楽しむ講演会(入場無料)

◆場 所：智恩寺方丈 (第1部)午後2時30分～4時40分  
みやび歴史の館 (第2部)午後7時30分～9時40分

◆テーマ：第1部 能「丹後物狂」への誘い  
第2部 芸能と芸術の時代 ～中世丹後と能楽～

◆講師：松岡心平氏 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

天野文雄氏 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

小林健二氏 (国文学研究資料館 教授) ほかにパネラーを予定

■10月24日(土) 能「丹後物狂」

◆開 場：午後1時30分 ◆開 演：午後2時30分

◆会 場：智恩寺(雨天は宮津会館)

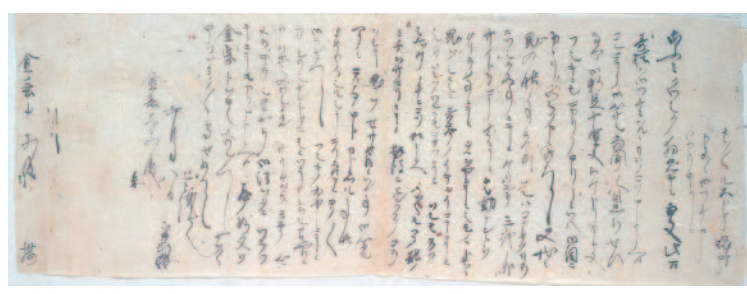
◆解 説：松岡心平氏

シテ 観世清和氏 二十六世観世宗家/子方 観世三郎太氏

◎S 席 8,000円(前売り7,000円)◎一般席 6,000円(前売り5,000円)

◆チケット/問合先(社) 天橋立観光協会

TEL：0772-20-8030 (KTR天橋立駅内)



□「世阿弥自筆金春禅竹宛書状」(「佐渡状」)室町時代 宝山寺蔵

中世の丹後は、「浦島」「酒呑童子」「山椒大夫」「徐福」など、現代日本人にとってなじみ深い多くの芸能作品をはぐくみました。このことは、天橋立の風光と九世戸智恩寺、西国二十八番札所の成相寺など、寺社や周辺景観にまつわる伝承が、都邑客旅の関心をかき立て、やがて各地に拡散していったためと考えます。

なかでも智恩寺は貴顕の参籠者を集めました。特に室町幕府三代将軍足利義満には、六度の九世戸遊歴記事が残ります。また同時代に上演され、この九世戸智恩寺を主要な舞台とした能に「丹後物狂」があります。井阿弥の原作を世阿弥が改作して上演し人気曲となりました。これまでに廃曲となっていました。今秋、二十六世観世宗家観世清和さん三郎太さん親子により、天橋立九世戸智恩寺において「丹後物狂」が上演される運びとなりました。

本展覧会はこれを記念して、「丹後物狂」がつくられた時代と足利将軍家、また物語が上演された当時の丹後の社会や宗教的環境について、肖像画と歴史資料を中心とした作品によって紹介します。丹後を舞台とする芸能作品についても紹介しながら、丹後天橋立が多くの芸能を生み出した背景にも近づきたいと思えます。



□絹本着色 釈迦三尊像  
南北朝時代 智恩寺蔵

## 京都府立丹後郷土資料館

### ふるさとミュージアム丹後

〒629-2234 京都府宮津市字国分小字天王山611-1

TEL：0772-27-0230 FAX：0772-27-0020

http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/

【交通】KTR「天橋立駅」・「岩滝口駅」下車、丹海バス伊根方面行き

「資料館前」下車徒歩3分

【入館料】個人/大人 200円・小人 50円(小中学生)

団体/大人 150円・小人 40円(20名以上)

※65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方とその介護者、小中学校等の行事・活動の観覧は無料です。

- ◎重要文化財 ○重要美術品
- 府県指定文化財
- ※会期中作品の入れ替えを行う場合があります。

